



シルバーだより

No. 261

平成 24 年 3 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

訃報：この度「荒川シルバー大学理事長 秋山照子氏」は 2 月 23 日
肺炎のためご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

「交流会に参加して」

・・・東日本大震災義援金に関して・・・

学 長 稲川君江

「3・11」東日本大震災から一年が経ちました。23 年度シルバー大学は新学期を迎えた時、私達に出来る事は何かを考えました。一年間を通して、各教室で自分達に出来る事に取り組んできました。様々な教室での活動を通して、最終的に 10・11 月の 2 ヶ月で学生全員による募金を実施しました。※「塵も積れば山となる」の通り、66 万円余りの募金額となりました。

この頃、荒川区には約 120 人の被災した方が避難生活をしている事を知りました。私達の貴重な募金は荒川区に非難している人達に使っていただく事になりました。集まった募金は荒川区社会福祉協議会の藤田局長様や担当の方々がすべてお世話をして下さいました。



被災している方は約 45 世帯、4 分の 3 の世帯が義援金を希望されました。1 月 28 日は第 3 回目の交流会が開催されました。シルバー大学は義援金贈呈のために参加しました。この交流会は社会福祉協議会主催で各月に実施され、生活消耗品の配付、情報交換、親睦を図っているそうです。未知の土地に避難してきた人達にとってどんなにか心強い事でしょう。

私達の義援金は、協議会の計らいで「区内共通お買い物券」に替えていただき希望の世帯に贈らせていただきました。今回の交流会は、時期的にも新年会という形で荒川地区ボランティアの方や協議会の方々の心のこもった手作りのご馳走が並びました。又区内の西六躰子連の獅子舞に正月気分が盛り上がり、特に被災者の小さな子供達の目が輝き楽しそうでした。

高齢者のご夫婦の多い中で乳幼児をかかえている 20 代の若い世帯の多いのが目立ちました。震災直後や数ヶ月後に出産し、家がありながら放射能から子どもを守るために避難してきた親としての熱い思いが伝わってきました。住み

慣れた故郷や親しい人達との別れをしいられ、不馴れな都会での生活はさぞかし大変な事でしょう。こんな生活がいつ迄続くのでしょうか。すべてを失った故郷が新しい街として復興するのはいつになるのでしょうか。しかし、大きな悩みや不自由をかかえている被災した方々は、予想以上に前向きで力強い表情をしていました。「苦しさに負けない日本人」と世界から称賛された日本人、その力強い人達を私は目の前に見た思いがしました。「私たちは荒川区にきてよかった。暖かい町です。みんなやさしい人達です。」と口々におっしゃっていました。私達はこれからも、身近にいるこの方達に応援の手をさしのべたいと強く強く思いました。

最後に荒川区社会福祉協議会事務局長の藤田様をはじめ、職員の方々の熱意と暖かい対応に心より感謝を申し上げます。

※ 「塵も積もれば山となる」:《「大智度論」九四から》ごくわずかのものでも、数多く積もり重なれば高大なものとなることのたとえ。

.....

「皆様の浄財は荒川区に避難されている家族の許に！」

荒川シルバー大学東日本大震災募金係 副学長 望月公子

66万円に昇った各教室からの募金は、1月28日の荒川区社会福祉協議会を通じ、荒川区に現在も非難を続けていられる全家庭に荒川区発行の買い物券としてお渡ししました。ここに、当日の様子を報告いたします。

会場は、“ジョイフルみのわ”の前の荒川区社会福祉協議会。参加者は、避難者50名余30世帯で、杖をつかれた高齢者、荒川区に避難してから生まれた乳児3名、車椅子の方、若い方やあどけない幼児と小学生など一つの地域丸ごとのような構成でした。

学長・理事長代行が支援団体として紹介されると、「ありがとうございます」「助かります」などわざわざ声をかけて来られた方もいました。シルバー大学の学生全員への言葉と思い、心してお受けしてきました。

会の後半は、新年交流会となり、西六獅子連の獅子舞とお囃子・ボランティアによる手作り料理が出され、和やかな雰囲気の中に交流会が終わりました。学長は、「避難されている方達の表情が想像していたより明るくてうれしかったです。」理事長代行は、ご自分の孫と同じような赤ちゃんの手を握り、しきりにあやしていました。「荒川区に避難してきたよかったです。区民の方たちの暖かさにほっとしています。」など、この一年間、避難生活を陰で支援してきた区民への感謝をいただいたのが印象的でした。

また、この支援団体を紹介してくださったシルバー大学「自分史教室」の学生からの情報提供があったことを併せてお知らせします

(2月理事会・役員会報告概要)

俳句教室作品より

木の肌のぬくみかすかに寒明ける
寒明けに隣の嬰のよく眠る
淡雪の身のほとりに消え水に消ゆ
誘わねば誘ひもあらず寒明ける
寒明けの鳥籠見てる猫ありし
白梅の闇ことごとく香りおり
紙塵の枝見事なり寒明ける
梅白し帯の袱紗の揺らぎいる

大久保須美子
和地みちよ
福田すゞ
田上昭子
白井佳子
柴田健次
印田和子
竹野美恵子



寒明けるなお続きおり氷点下
寒明ける声高の朝はじまりぬ
梅白し手塩にかけしそれだけに
冬桜仰ぐ吐息の触れいたる
母に糸通せしことの針供養
授かりし年齢のいとしく寒の明
水温む子の声はずむ向う岸
寒の月無我の境地に入りいる
寒明けにわたし大好きミルクティ

坂岡容子
千葉瑞圓
阿曾八重子
滝口和彦
茂呂ユリ子
田淵員子
木下英子
小澤美佐枝
羽生悦子



ふるさと歌碑・・・・・・・・

晩秋のふる里に帰った。田園ばかりの庄内平野。南に月山、北には標高 2230 mの鳥海山が、万年雪をのせて聳え立っている。間に連なる朝日連峰裾野には少し紅葉が残っているのか、うっすらと色がついていた。

橋の上から眺める風景は、変わっていない。此処に立つと、ふる里に帰ってきたんだとほっとする。庭に入って行くと、実のなる木はすっかり葉を落とし、屋敷を囲むように植えてある杉の木も下の枝は落とされて、木と木に渡した竹竿に葉の方を藁でしばった大根が列をなして干してあった。

農道を少し歩くと川がある。祖母が子供の頃は、米を舟に積んで、この川をのぼっていったそうだ。舟の先に縄をむすんで、子供たちを引っ張ったものだと、秋の夜長炬燵の中で話してくれた。その川の水辺に私の好きな秋の草、金平糖のような花をつける《水そば》がいっぱい咲いていた。風がないので靄殻を燃している家もあった。いい匂いがする。灰は肥料になると聞いた。米作りの終わった農家には静かな空気が流れていた。晩秋の太陽は足早に西の空へと傾いて、山の端にかかるところを赤い夕日は、遙か遠くまで伸びて、田園に並ぶ刈り取った稲株の根元をあたためていた。

広報部部長 佐藤恒子

3月の行事

平成23年度 閉講・卒業式

日時：平成24年3月16日（金） 午後2時00分

会場：サンパール荒川 小ホール

一部

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 開式のことば | 7. 奨励賞授与 |
| 2. 敬礼 | 8. 奨励賞受賞者謝辞 |
| 3. 理事長挨拶 | 9. 校歌斉唱 |
| 4. 卒業証書授与 | 10. 閉式のことば |
| 5. 学長式辞 | 11. 敬礼 |
| 6. 卒業生答辞 | |



二部 記念撮影

奨励賞受賞者・卒業生

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 2 月 ◆◆◆◆◆

- | | |
|------------------------------------|-------------------|
| 7日 常任理事会・役員会 | 17日 旧真土小使用申請提出 |
| 8日 学芸会打合せ（最終23日）
サンパール荒川舞台ご担当者と | 20日 広報部委員会 |
| 13日 23年度募集受付（24日迄） | 27日 シルバーだより261号作成 |
| | 29日 学芸会（サンパール荒川） |

※ 事務局だより ※

1. **平成24年度の募集申込み受付**は終了致しました。区の社会教育課、福祉高齢者課および広報課、生涯学習センター他、皆さんより多大なるご協力をいただき心より感謝申しあげます。また役員の方々には毎日お手伝い頂きありがとうございました。
2. **水彩画教室の発表会**を下記のように開催致します。皆様お誘い合わせの上ご鑑賞下さい。会期：3月7日（水）～13日（火） 午前10時より午後6時（初日は午後1時開会、最終日は午後3時閉会） 会場：町屋文化センターふれあい広場
3. **講師会について** 日時：3月30日（金）午後1時より 会場：第一会議室
事務所 TEL3801-5740 FAX3801-5691
ホームページ <http://www.arakawa-silver.com/> 室長：田原